

(1) タイトル:ニボルマブによる薬剤性肺障害に対してインフリキシマブが奏効した胃癌の1例

著者名:荻須智之¹、山口晃子¹、加藤駿介²、春日井邦夫²、久保昭仁³、伊藤理¹。

所属機関:¹ 愛知医科大学医学部内科学講座(呼吸器・アレルギー内科)

² 愛知医科大学医学部内科学講座(消化管内科)

³ 愛知医科大学病院臨床腫瘍センター腫瘍内科部門

*責任著者:荻須智之 (Tomoyuki Ogisu, MD)

(2) 要旨

症例は進行胃癌と診断された72歳男性。S-1+オキサリプラチン+ニボルマブ併用療法を4コース施行後に呼吸困難が出現した。胸部CTで両肺下葉に浸潤影を認め、入院となった。免疫関連有害事象としてのニボルマブによる肺障害と診断し、ステロイドパルス療法を施行し、改善した。ステロイドの減量により肺障害が再燃するため、インフリキシマブを計2回投与したところ奏効した。ステロイドでコントロール不良の免疫チェックポイント阻害薬による薬剤性肺障害に対し、インフリキシマブの追加は有効な治療法となりうる。

(3) キーワード(5語以内)

胃癌、薬剤性肺障害、ニボルマブ、インフリキシマブ、免疫関連有害事象

Keywords

Gastric cancer, Drug-induced lung injury, Nivolumab, Infliximab, Immune-related adverse event (irAE)

短縮タイトル

インフリキシマブが奏効した薬剤性肺障害